

## V121b VLBI 将来計画ワーキンググループ検討報告

新沼浩太郎（山口大学）、河野裕介（国立天文台）、寺家孝明（国立天文台）、中川亜紀治（鹿児島大学）、永山匠（国立天文台）、秦和弘（国立天文台）、廣田朋也（国立天文台）、藤澤健太（山口大学）、ほか VLBI 将来計画ワーキンググループ

VLBI はその圧倒的な角度分解能によって測地地球物理や天文学といった観測的研究において今なお独自性を発揮し続けている。また目的を共有した国際協力を生み出しやすいという側面も併せ持つとともに、科学的研究と技術開発研究との間でも大きなシナジーを生み出し続けている。加えて、日中韓の連携により立ち上がった東アジア VLBI 観測網によって、東アジアの若い研究者の人的交流も活発になり東アジアにおける VLBI コミュニティは発展し続けている。一方で、20 年近くにわたり国内の VLBI 研究の中核を担ってきた国立天文台水沢 VLBI 観測所主導の VERA プロジェクトが第 3 期中期計画の終了に向け成果を取りまとめる時期になるなど、日本の VLBI コミュニティにとって大きな節目の時期を迎えている。

このような状況において、我々は次期中期計画だけでなく長期的な視点で国内のコミュニティが柱に据えるべきサイエンスと将来計画を集中的に議論するべく、VLBI 懇談会の中にワーキンググループを立ち上げ 10 ヶ月近くにわたり検討を進めてきた。ワーキンググループのメンバーはコミュニティの推薦をもとに、国内の大学や国内外の研究機関を含む幅広いユーザーコミュニティから選ばれている。検討の結果、これまで日本のコミュニティが培ってきたテーマに加え、VLBI を用いたコンパクト天体の観測的研究の必要性なども提案されている。本講演では、サイエンスの柱を中心にワーキンググループにおいて取りまとめた将来計画について報告する。